㊦ 中小企業経営・中小企業政策

【総評】

令和7年度の本試験は、42問の設問数であり、出題内容別で見ると、中小企業経営が21設問、中小企業政策が21設問と、例年どおりであった。

難易度は、中小企業経営は定番の企業数・従業員総数・経営指標等、中小企業政策は定番論点で確実に得点を積み重ねたいところである。全体的には難易度は、標準レベルであると考えられる。

（中小企業経営）

21設問のうち、『2024年版中小企業白書』からの出題が13設問、『2024年版小規模企業白書』からの出題が6設問、その他（『ものづくり白書2024年版』）が2設問であった。中小企業経営は、白書の特徴をしっかりと押さえられたかどうか得点に大きく影響する。

第1問（従業員総数・付加価値額）、第2問（付加価値額）、第3問（企業数）、第4問設問2（売上高経常利益率・自己資本比率）、第8問（労働分配率）、第12問（売上高に対する研究開発費の割合）、第13問（損益分岐点比率）、第14問（倒産件数の推移）を中心に、その他の問題で可能な限り得点を積み重ねたい。

（中小企業政策）

21設問のうち、定番の頻出論点等でしっかりと得点を積み重ねることができたかどうかで得点が大きく変化する。これまでに出题されたテーマをいかにミスせずに得点できたかがポイントとなるだろう。

第21問（中小企業基本法）、第22問（ものづくり補助金）、第23問（経営セーフティ共済）、第26問（信用保証制度）、第27問（交際費等の特例措置）、第28問（地域未来投資促進法）、第29問（経営革新）などで得点を積み重ねたい。

以上